



JAようていブロッコリー生産組合 青空教室・目合わせ会を開催しました！

7月7日、JAようていブロッコリー生産組合（組合長：青柳雄三さん）は、真狩村にて「目合わせ会」を開催しました。当日は生産者や関係機関など約30名が参加し、ブロッコリーの出荷基準や市場の最新情報を共有し、今シーズンの高品質な出荷に向け、共通意識を深める機会となりました。

会の中では、JA職員よりブロッコリーの取扱要領について説明があり、障害果の実物サンプルや、パレット輸送用の発泡ケースも展示され、出荷時の注意点が具体的に紹介されました。

また、市場関係者として札幌みらい中央青果㈱の

担当者からも現在の市場や販売情勢について説明されました。今年はコナガヤカメムシの発生が多いため、防除の徹底についても強く呼びかけられました。

参加者からは活発な質疑応答や意見交換も行われ、ブロッコリーの出荷品質を統一し、消費者に安心・安全でおいしい商品を届けるための意識共有が図られました。

なお、今年度の作付面積は約218ha、集荷見込みは約6,674千株が見込まれています。出荷期間は6月下旬から10月下旬まで続く予定です。

【担当：松浦】



目合わせ会の様子（真狩選果場）



JAようていトマト生産組合 目合わせ会・圃場視察研修を開催しました！

7月15日、JAようていトマト生産組合（組合長：越後功さん）は、令和7年産トマトの品質向上と安定出荷に向け、蘭越町・喜茂別町にて目合わせ会、倶知安町にて圃場視察研修を開催し、延べ102人が参加しました。

目合わせ会では、JA職員が本年度の取扱方針や規格基準について、実際の見本品を用いて説明しました。生産者からの質問にも丁寧に応じ、理解を深める機会となりました。

圃場視察では、倶知安町の千葉紘大さんの圃場を見学しました。「れおん」や「麗月」といった、裂果に強く日持ちの良い品種の導入状況が紹介され、現場での意

見交換を通じて栽培管理のポイントである灌水の重要性などを共有しました。

また、後志農業改良普及センターの専門指導員からは、アザミウマ類や灰色かび病などの病害虫対策について講話があり、早期発見と迅速な対応の必要性が呼びかけられました。

JAようていでは、今後も現地での研修や説明機会を重ねながら、生産者とともに高品質なトマトの安定出荷体制づくりを進めていきます。

なお、今年度の作付面積は約12.6ha、計画数量は約1,149tを見込んでいます。

【担当：松浦】



目合わせ会の様子



圃場視察研修の様子